

平成30年度 公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する 指標策定に関するアンケート（第3回）調査結果

掲載日：令和元年5月20日

教職員支援機構次世代教育推進センターにおいて標記アンケートを実施しましたので、調査結果を掲載します。

調査の概要

調査名称：平成30年度 公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する
指標策定に関するアンケート（第3回）

実施主体：独立行政法人教職員支援機構

調査対象：67自治体（47都道府県教育委員会、20指定都市教育委員会）

調査期間：平成31年3月～平成31年4月（基準日：平成31年3月31日）

調査方法：メールによる質問紙調査

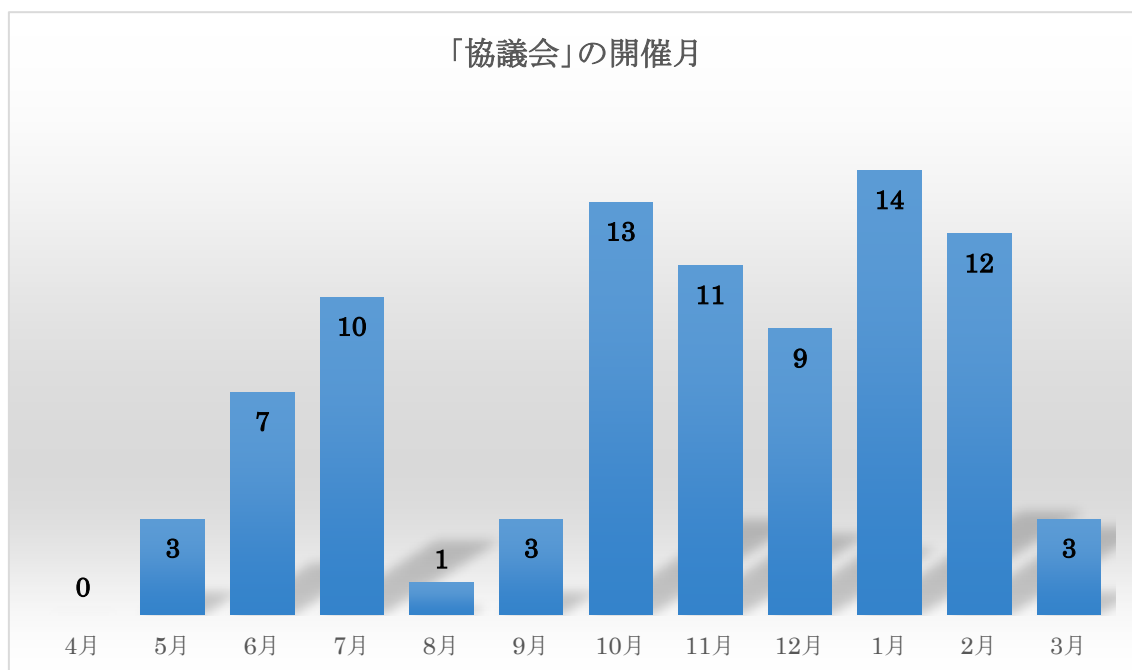
回収率：100%

調査結果の概要

*以下、「自治体」とは、都道府県・指定都市を指す。

1. 本年度、「協議会」を開催した月

※選択：「本年度、『協議会』を開催した月を全て御記入ください。」という質問への回答
(回答数：67自治体/67自治体中)

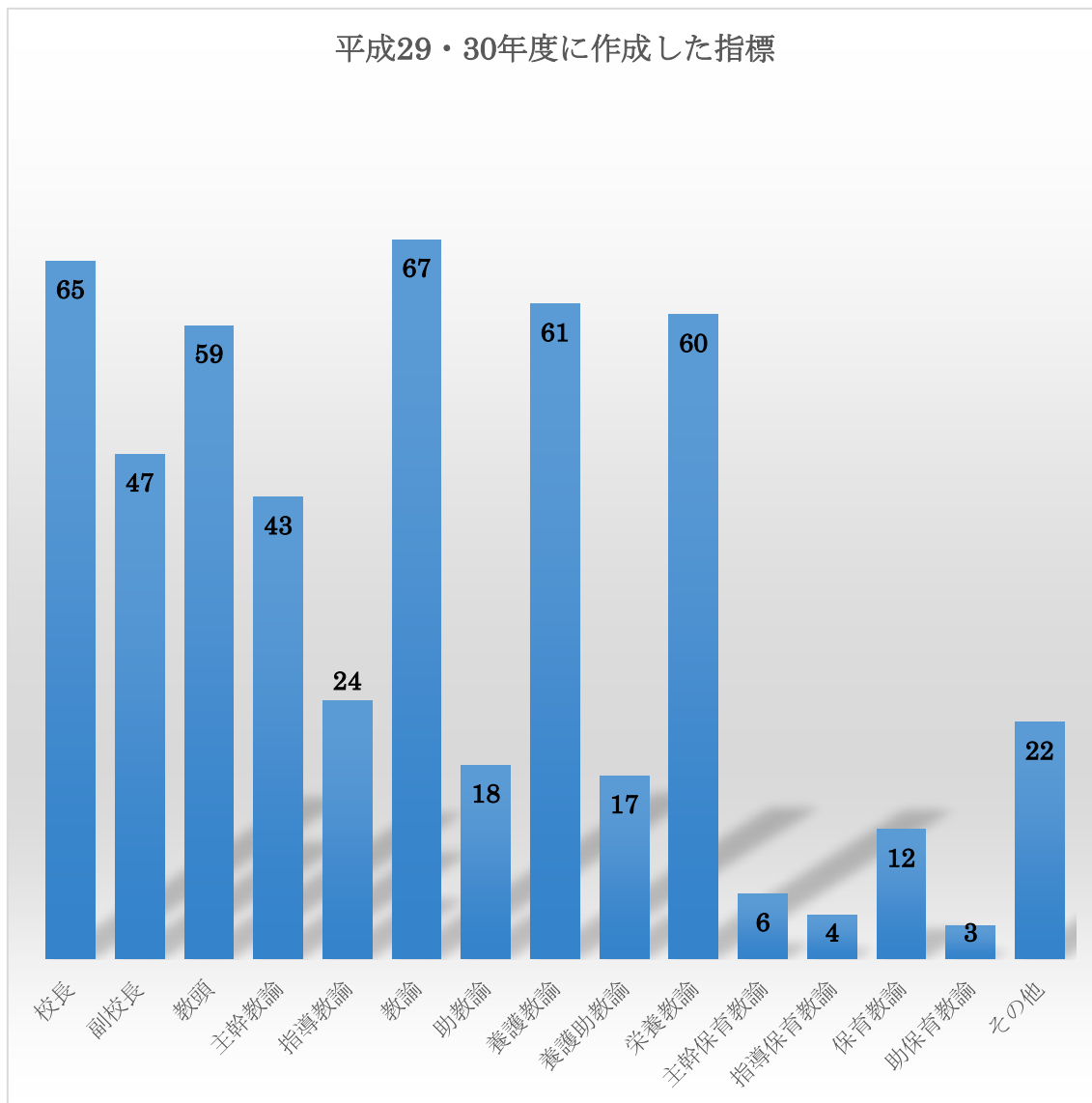


2. 平成29・30年度に作成した指標

※選択:「平成29年度及び30年度の2年間で、どの教職員等の指標を作成されましたか。

該当する番号を全て回答欄に御記入ください。『その他』がある場合は、()の中に具体的に御記入ください。」という質問への回答

(回答数: 67 自治体/67 自治体中)



【その他の例】

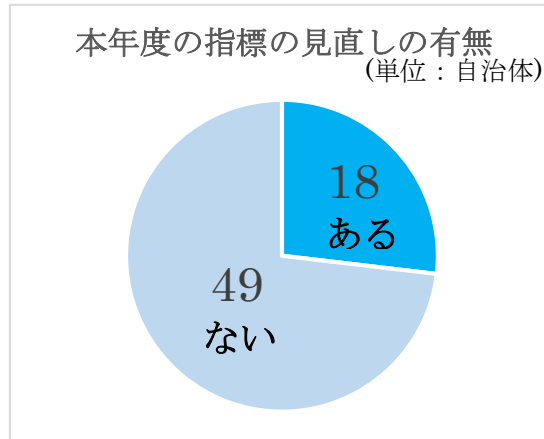
・園長 ・幼稚園教諭 ・事務職員 ・講師 ・農場長 ・実習助手

等

3-1. 見直しの有無

※選択：「本年度、指標の見直しを行ったものがありますか。」という質問への回答

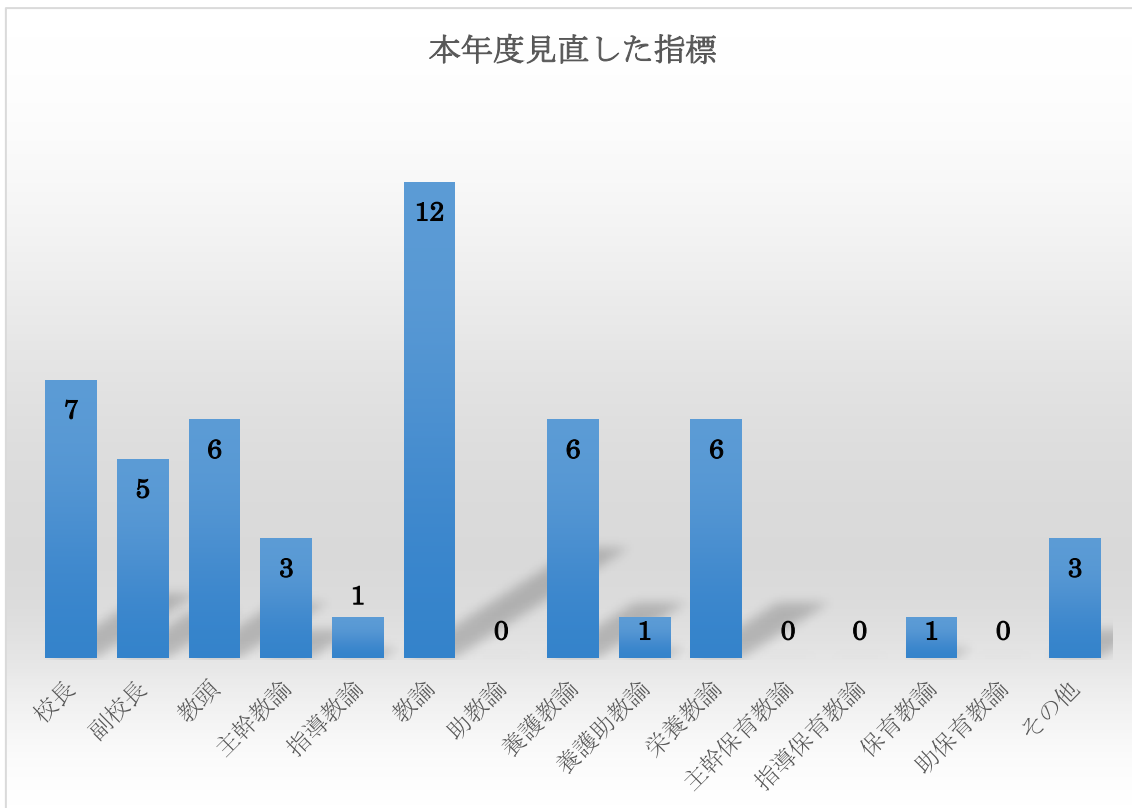
(回答数：67 自治体/67 自治体中)



3-2. 見直した指標

※選択：「問3-1で『ある』と回答された自治体に伺います。見直しを行った指標はどれですか。該当する番号を全て御記入ください。」という質問への回答

(回答数：18 自治体/18 自治体中 ※複数回答)



【その他の例】

・事務職員 ・農場長

等

3-3. 見直しの理由

※自由記述：「問3-1で『ある』と回答された自治体に伺います。指標の見直しを行った理由は何ですか。」という質問への回答

(回答数：18自治体／18自治体中)

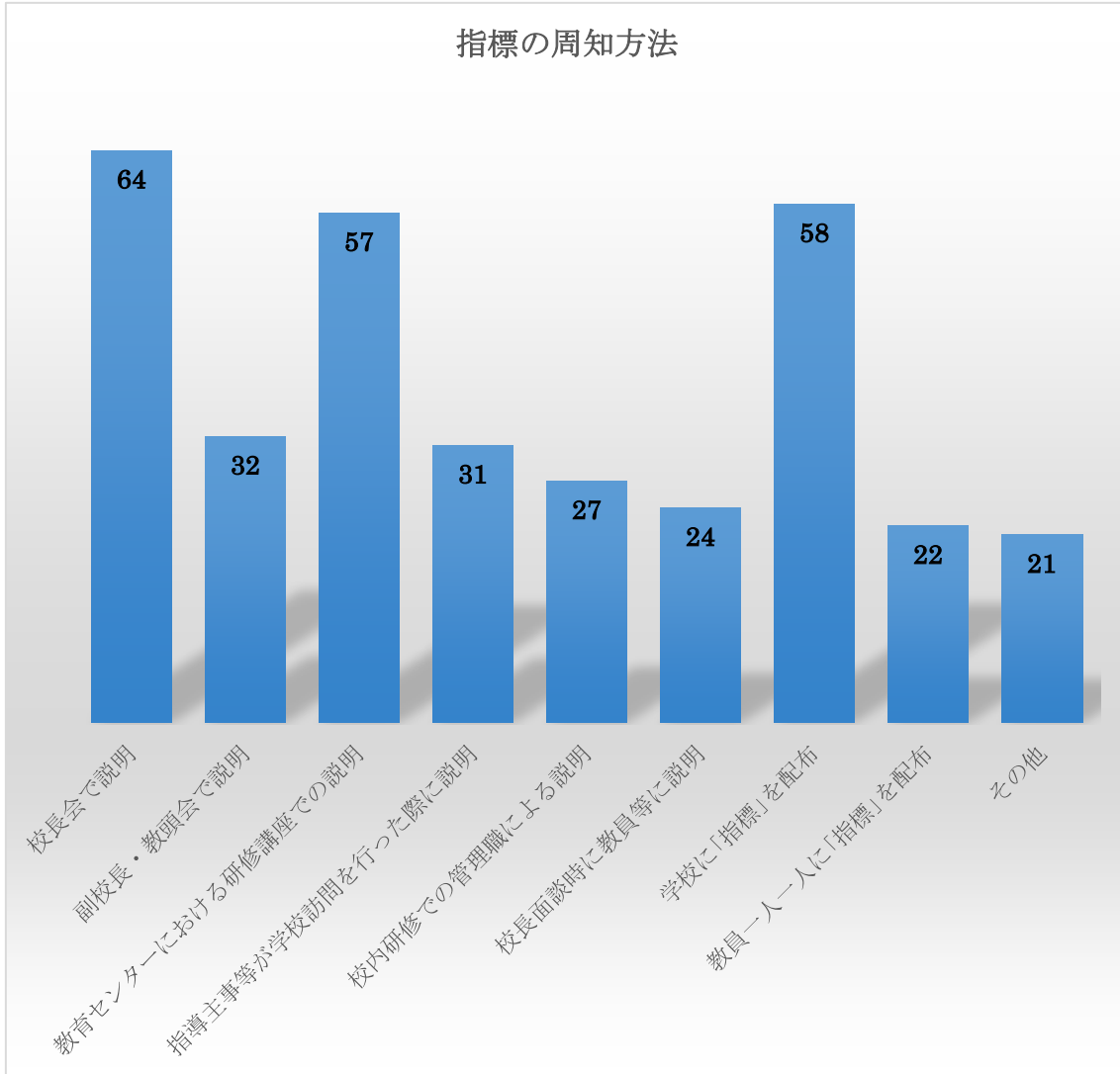
【主な回答例】

- ・各職種の役割を踏まえた系統性をもった指標とするため、平成29年度に作成した校長・教諭指標（暫定版）の見直しを行った。
- ・「学校安全」の項目がどの指標にも必要であることから、教諭版の指標に追加した。
- ・表現の統一を図るため、教諭版の文言を変更した。
- ・新学習指導要領に基づき、付けるべき力を資質・能力として見直した。
- ・平成31年2月学校保健全国連携協議会において、新たな学校保健の領域が示されたため。
- ・より専門性が求められる職種であると判断したため。 等

4. 指標の周知方法

※選択：「教員等への指標の周知をどのように行いましたか。該当するものを全て回答欄に御記入ください。」という質問への回答

(回答数：67 自治体／67 自治体中 ※複数回答)



【その他の例】

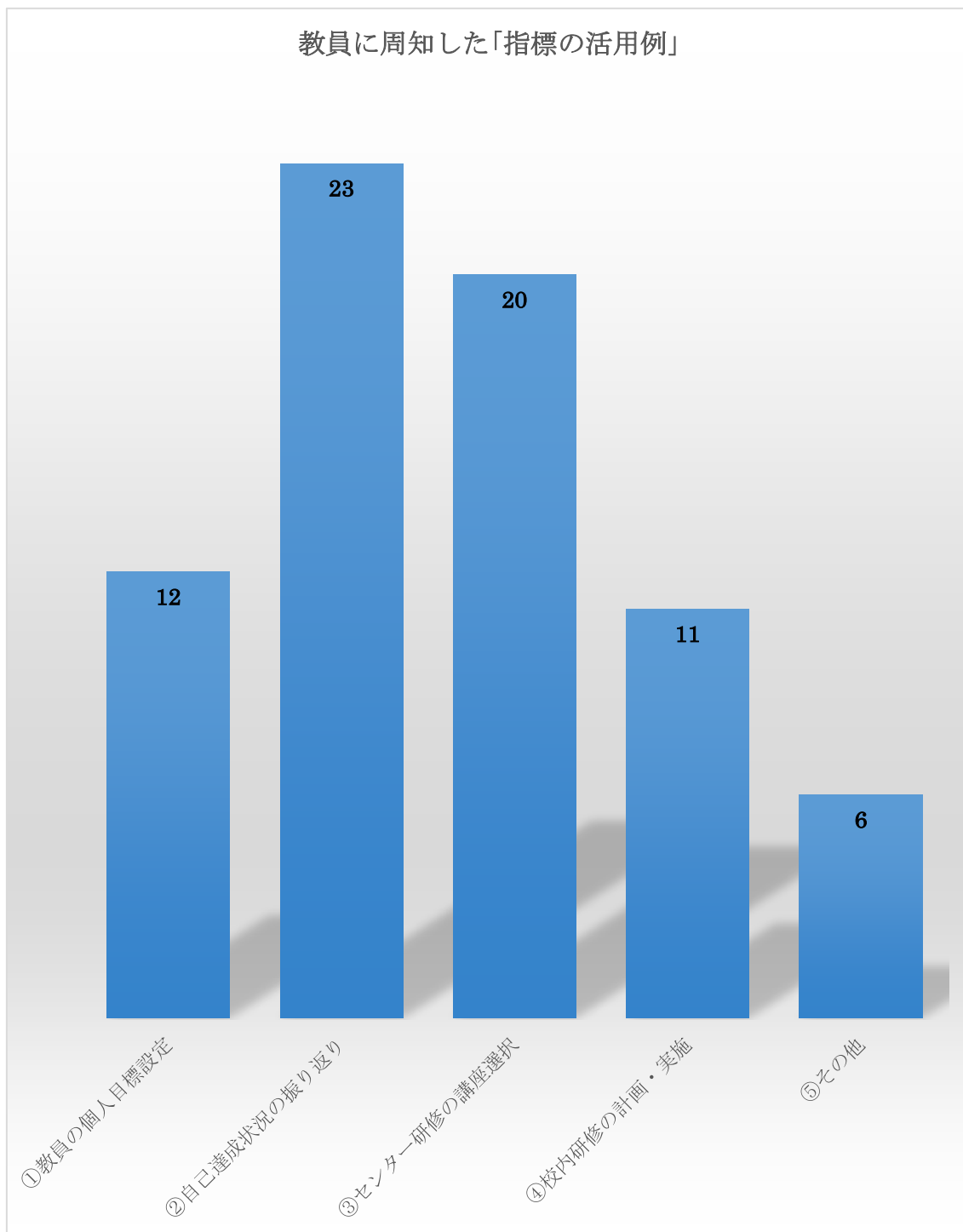
- ・若手教員を指導する教員に説明を行った。
- ・リーフレットを作成し公立学校へ配付するとともに、県教育委員会ホームページに掲載。
- ・初任者研修対象者配置校の管理職の集まる「初任者研修実施説明会」で説明した。また、初任者研修対象者配置校の指導教員が集まる会で説明した。
- ・指標のポスターを作製し、各校に掲示依頼。
- ・校務支援システム掲示板への掲載。

等

5-1. 教員に周知した「指標の活用例」

※自由記述：「教員に周知した指標の活用例について、具体的な内容を回答欄に御記入ください。」という質問への回答を類型化

(回答数：66 自治体／67 自治体中 ※複数回答)



【グラフの項目ごとの主な回答例】

① 教員の個人目標設定

自己のキャリアアップを図るための目標設定の参考とする。

② 自己達成状況の振り返り

教員一人一人が「教員育成指標」を活用することにより、自らの職責、経験及び適性に応じて身に付ける必要がある資質能力について振り返りを行う。

③ センター研修の講座選択

教育センターの研修講座を受講する際の参考等。

④ 校内研修の計画・実施

校内研修の研修内容の確認。

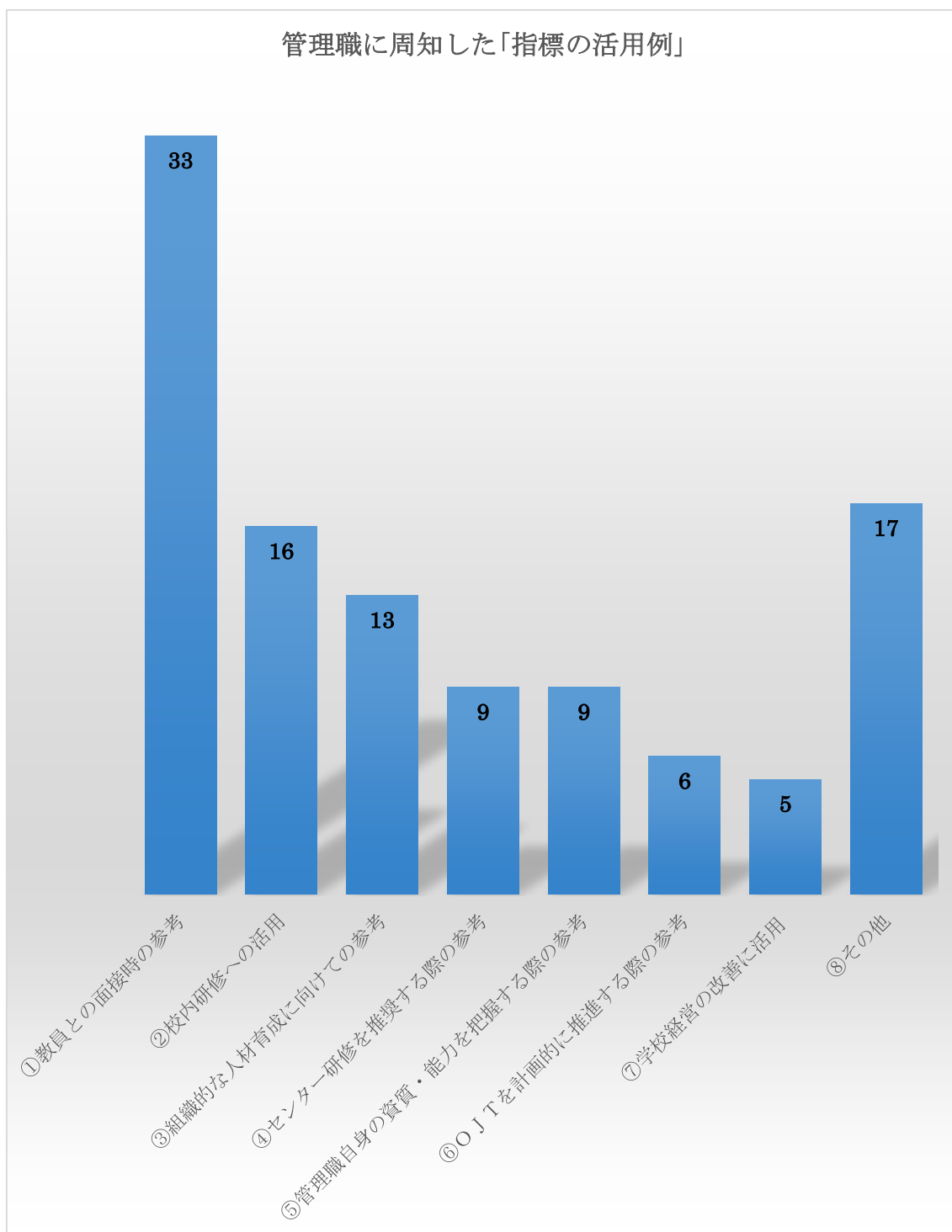
⑤ その他

- ・校内でOJTを進めるにあたって、先輩教員から後輩教員にアドバイスをする際の参考にすること。
 - ・指標を活用した校内研修ツールとして、ユニバーサルデザインを構築し、授業づくり、学級づくりの基盤となる内容を身につけることができるようにした。
 - ・指標を基に自らの研修計画を立案するよう、活用ガイドを配付し周知した。
- 等

5-2. 管理職に周知した「指標の活用例」

※自由記述：「管理職に周知した指標の活用について、具体的な内容を回答欄に御記入ください。」という質問への回答を類型化

(回答数：64自治体/67自治体中 ※複数回答)



【グラフの項目ごとの主な回答例】

① 教員との面接時の参考

教員面談を受ける際の参考、指導を行う際の参考にしている。

② 校内研修への活用

校内研修を実施する際の基礎資料としている。

③ 組織的な人材育成に向けての参考

学校経営ビジョンに基づく、組織的な人材育成に活用。

④ センター研修を推奨する際の参考

所属校の教員に教育研修センターの希望研修等を推奨する際に、基準として活用している。

⑤ 管理職自身の資質・能力を把握する際の参考

自己の現時点における資質を把握し、資質向上を図る。

⑥ OJT を計画的に推進する際の参考

校内での OJT における組織的な人材育成の目安にすること。

⑦ 学校経営の改善に活用

自校の学校経営を振り返る際の目安にすること。

⑧ その他

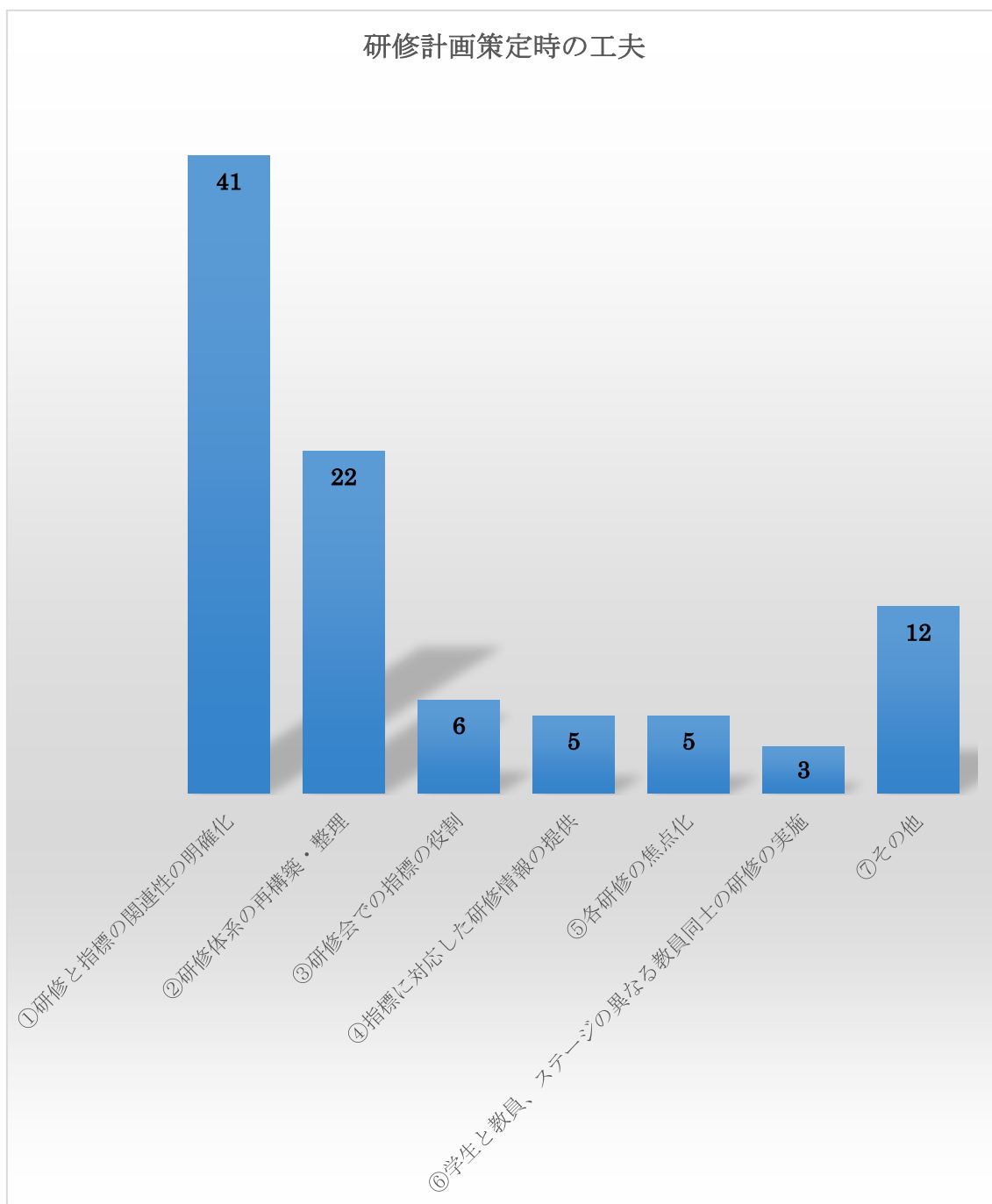
初任者研修や中堅教諭資質向上研修の管理職による評価において、「指標」を踏まえて評価してもらった。

等

6. 研修計画の工夫

※自由記述：「指標に対応した研修計画策定において、貴自治体で工夫された事例を、回答欄に御記入ください。」という質問への回答を類型化

(回答数：67 自治体/67 自治体中 ※複数回答)



【グラフの項目ごとの主な回答例】

① 研修と指標の関連性の明確化

教員のライフステージと研修体系を表にまとめ、教職経験段階に応じた研修を可視化できるように見直しを図った。

② 研修体系の再構築・整理

指標の各キャリアステージの最初の年度に、基本研修を入れ、キャリアステージに応じた資質・能力の向上につながるような研修体系に再構築した。

③ 研修会での指標の役割

受講者が研修の中で現在のステージの指標の達成状況を確認したり、次のステージの指標を確認して今後の目標を考えたりする時間をとっている。

④ 指標に対応した研修情報の提供

指標をクリックすると関連する研修が表示される Excel ファイルを作成し、提供しています。

⑤ 各研修の焦点化

次年度の研修の企画段階で、各研修で取り扱う内容と指標の関連を確認し、研修ごとに内容の焦点化を図った。

⑥ 学生と教員、ステージの異なる教員同士の研修の実施

大学側と協議し、教員を志す学生が参加可能な研修会をいくつか設け、教員と学生の双方に対応した内容を意識し、研修会の立案・実施を行った。

⑦ その他

法定研修（初任者研修、中堅教諭等資質向上研修）受講者に、1年間の全研修終了後に具体の姿を例示して指標達成度を自己評価させた。

等

7. 指標に対応した研修の効果測定

※自由記述「指標に対応した研修の効果測定に関して、貴自治体で工夫された事例を、回答欄に御記入ください。」という質問への回答

(回答数：64自治体/67自治体中 ※複数回答)

【主な回答例】

○研修直後に行うアンケートの実施に関するもの

- ・研修後のアンケート調査を行い、研修効果の検証、内容の改善・充実を図っている。
- ・すべての研修講座受講後に行う「終了後アンケート」において、指標を基に明らかになった自己課題を解決することができたかという項目を入れ、自己評価させた。

○一定期間の後に行う評価に関するもの

- ・教育センターの研修講座の受講前と受講後に、それぞれ、育成指標を意識した「研修のねらい」の達成度を受講者に自己評価させる取組を行った。
- ・管理職研修及び初任者研修受講者に対して、年度末にアンケートを実施し、達成度等の自己評価をする機会を設けるとともに、アンケート結果を次年度の講座構築に反映させた。
- ・中堅教諭等資質向上研修講座受講者及び副校長・教頭に対して、年間を通しての指標の達成度について、アンケート調査を行った。
- ・初任から3年目まで継続して指標の達成度を自己評価させることで、個人内の伸びを測定した。

○所属長等による受講者評価に関するもの

- ・年度末に、初任者研修、中堅教諭等資質向上研修、新任教務主任研修、新任主幹教諭研修、新任管理職研修等の各研修の効果について、各学校種の校長会にアンケートを実施した。
- ・基礎研修において、指標の達成度を管理職と受講者に評価させる。
- ・中堅教諭等資質向上研修では、指標を活用して、所属長による評価を行い、効果を測定した。

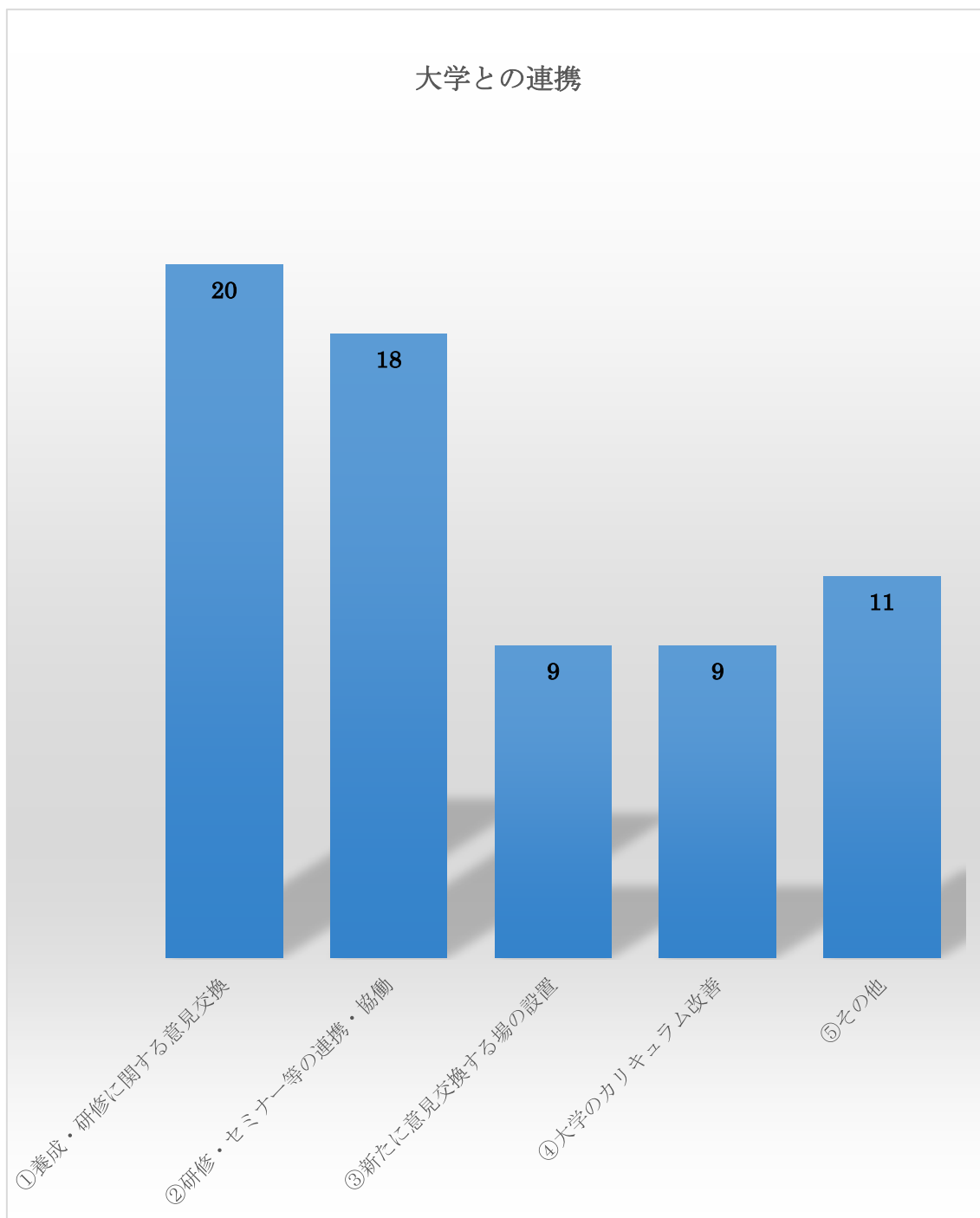
○聞き取り調査等に関するもの

- ・研修直後のアンケートの他、いくつかの学校を訪問して聞き取り調査を実施。
- ・学生が受講できる研修に関わった、指導主事、研修講師、参加した教員、学生からそれぞれ聞き取り調査を実施した。
- ・研修を終えた後、研修会で学んだことを学校現場でどのように活かしたかをレポートにまとめ、1月末に提出を求めた。また、そのレポートを基に次年度の研修会の改善を行った。
等

8. 新たな大学との連携

※自由記述「指標策定に係る協議会等により、新たに教員養成大学と連携が深まった事例を、回答欄に御記入ください。」という質問への回答を類型化

(回答数：62自治体／67自治体中 ※複数回答)



【グラフの項目ごとの主な回答例】

① 養成・研修に関する意見交換

協議を通して、大学における教員養成と教員研修の連携について意見交換を行った。

② 研修・セミナー等の連携・協働

平成 31 年度は、技術・家庭における研修を大学と共に開催し、教員だけでなく、教員を志す学生の支援にも寄与できるよう取り組んでいくこととしている。

③ 新たに意見交換する場の設置

地元国立大学教職大学院と「教員研修システム共同開発委員会」を設置。

④ 大学のカリキュラム改善

指標を踏まえた協議により、大学がカリキュラムやシラバスの改善を図った。

⑤ その他

- ・本市で教員をめざす養成期の学生が夜間講座を受講できるようにした。
- ・養成期の学生に対して、教育センターHP上に、キャリアステージごとに対応したデジタルコンテンツを配信し、視聴できるようにした。
- ・教育センター長期派遣研修生の教職大学院授業の部分聴講を平成 31 年度より実施予定。